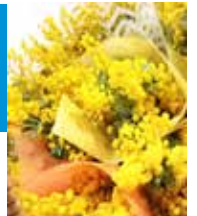


## 2022年を振り返って ～女性と女兒に対する深刻な影響、デジタル世界の行方～



2019年末に始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、長期戦の様相を呈しています。国連の女性機関UN Womenは、当初からいち早くジェンダーに考慮したパンデミック対策を国際社会と国連システムに訴え、対策事業と積極的な政策提言を行ってきました。ウクライナ情勢下では緊急ジェンダー分析の下に近隣諸国にジェンダータスクフォースを立ち上げ、人道支援にジェンダーの視点を組み込む支援をしています。

**【陰のパンデミック】**ロックダウンや外出自粛により、多くの国々でDVの報告件数が25%以上増加しました。UN Womenでは、この暴力の増加を「陰のパンデミック」と呼び、各国に対策を訴えました。2020年報告書「COVID-19 女性と女兒に対する暴力」では、感染防止対策により女性たちへの支援が平時より困難になった状況を報告。ホテルをDV被害者のシェルターとして活用しているフランスの例や、薬局で「Mask-19」という暗号でメッセージを提示し加害者に気付かれることなく暴力を通報できるスペイン・カナリア諸島の例、コロンビアやアルゼンチンが実施している司法制度の改善例など13例を紹介し、各国関係機関への今後の行動に向けた提言も行いました。女性の家事・育児・介護などの無償労働に従事する時間は男性の約3倍に、感染の最前線で働く医療従事者の70%は女性です。これらのジェンダー不平等に基づくリスクは、2030年度までの持続可能な開発目標SDGsの進捗状況を大きく妨げ、コロナ危機は、それ以前から存在していた政治・経済・社会・文化的な格差による女性と女兒への影響をさらに深刻化させています。

**【女性兵士という問題】**2月にはロシアがウクライナに侵攻、国連の常任理事国が国際法を無視して軍事攻撃に走り、世界中を震撼させました。ウクライナ市民の死者は6595人（内子ども415人：国連11/20）、国境を越えた避難民は1535万人超（国連）と発表されています。国内の18から60歳迄の男性が国外避難禁止になる中、多くの若い女性が志願し兵士になりました。今後、酷寒を迎える現地の人々への影響が懸念されています。

アフガニスタン、ミャンマーなど、紛争が続く中、「女性兵士の活躍は男女平等の証か」とメディアで取り上げられるようになりました。ウクライナの女性兵士は全体の15%、3万人以上（毎日新聞デジタル）。「2014年のクリミア強制編入を契機に女性たちが声を上げ、戦闘に就ける女性の範囲が拡大、女性に平等な権利と機会を与える原則が確立された。戦後のウクライナではジェンダー平等はさらに発展していると思う」（7/14配信）とウクライナのジェンダー問題専門誌タマラ・ズロビナ編集長は語りました。アメ

リカでは1972年に徴兵制から志願制度に切り替わり、ハイテク戦争の始まりであった1991年の湾岸戦争では女性兵士の戦闘参加を解禁、参戦した女性兵士は全体の12%の4万人に上りました。日本では、1992年から防衛大学への女性の入学が可能に、自衛隊の女性比率は陸海空合わせ8.3%、約1.9万人（2023年末現在）に達します。しかし、2020年に性被害を受け退職を余儀なくされた女性自衛官が、勇気をもって部隊内セクハラ被害を訴え、他にも潜在化されていた被害が明るみになり、組織内の人権意識が問われることとなりました。

女性の従軍を巡って様々な議論が交わされてきました。単純な男女平等の進展とすべきではない、女性の男並みは平等といえるのか、もはや女性＝平和の構図はなくなった、男らしさの学校である軍隊を脱男性化する等。女性だから仕方がないを超えてジェンダー問題に取り組む社会の姿勢が求められています。

**【スカーフ問題の広がり】**イランでは9月、スカーフの着用が不適切だと拘束された女性（テヘランを旅行中の22歳）が3日後に急死、その不審な死を巡って国内各地で抗議デモが拡大しました。追悼日には、数千人が行進しました。スカーフ着用を巡っては国内外で自由を求める女性の反発が強く、数年前からSNSへの投稿運動が広がっています。その背景には、新しいリベラルな共和国を望む声も含まれています。自分の意思でスカーフを着用する女性もいる、基本的に被るか否かは女性自身が自由に決めべきとの考えや、着用の強制は自由を妨げる行為であり女性差別の象徴だなどの主張が広がっています。

**【変化を恐れず】**一方、デジタルな世界での動きは、どのようになっているのでしょうか。Hubspotが9カ国1702人に実施した「組織が直面している最大の課題は何か」の調査では、「企業は多額の費用に直面している一方で、成長は減速し、見通しは益々達成しにくくなっている」との結果を報告しました。3つの分断が企業を苦しめ成長を鈍化させているとヤミニ・カンガンCEOが解説しています。デジタル神話の終焉と題してメディアが取り上げた背景には、人間関係の構築がより困難になり分断が進む現実への警鐘が窺えます。安易に何かに依拠せず、性別に捕われず、一人の個として考え助け合って生きることが強く求められています。（記：城倉純子）

参考：国連ウィメン日本協会HP、「COVID-19がもたらす女性・女兒へのリスクとUN Womenが果たす役割」石川雅恵日本事務所長、上野千鶴子著「生き延びるための思想」、NHK解説委員室、東京新聞Tokyo Web、テレ朝ニュース、毎日新聞デジタル「経済プレミア」、VOGUE JAPAN、「サンドラがみる女の生き方」、Y!ニュース織田朝日

# 連続講座2022～2023 「大学教育最前線」全4回 ～これからの社会が求めるリーダー像を考えよう～

講師 安齋徹 教授 (清泉女子大学文学部 地球市民学科)

連続講座

社会の変化に取り組む人材の育成が喫緊の課題となっている現在、知識をどう活用し実践へとつなげるか、様々な機関のチャレンジが加速しています。それらの中で注目を集めるアメリカの「ミネルバ大学」では、キャンパスなし、授業は全オンライン、4年間で7都市を旅する全寮制の少人数教育を展開、世界をキャンパスに知識を実践に繋げ、世界が抱える問題をイノベティブに解決できる人材の養成を目的としています。その日本版ミネルバ大学を志向する清泉女子大学文学部地球市民学科では、地域や企業との様々なプロジェクトを展開、変化に強いリーダーシップの追及とフットワークのよい学びを展開しています。当講座では、これからのNGOに必要とされる人材育成の参考にして頂くべく、清泉女子大学のインタラクティブな授業の様子を、ディスカッションやグループワークなどを交えて学びます。

## ●第1回 テーマ「プロジェクト」 10月17日 開催

「大学教育に求められる質的転換の柱がアクティブ・ラーニングの推進。学生はディスカッションなど双方向の授業やプロジェクトなどの教室外学修プログラムを通して、生涯学び続け主体的に考える力を修得する。清泉女子大学で実践されているプロジェクト教育の一端」を披露して頂きました。

## ●第2回 テーマ「コンセプト」 11月21日 開催

「先行き不透明で将来の予測が困難な時代には、知識は陳腐化し、役に立たない。地球市民学科での、思考や実践の型を「コンセプト」として教える日本版ミネルバ大学を志向する同学科の取り組み」を紹介して頂きました。

## ●第3回 テーマ「リーダーシップ」2023年度開催予定

「グローバル化が進む世界の中で、求められるリーダー像がどのように変容しているのかを明らかに。併せて清泉女子大で実施している女性リーダー育成術の一端」を披露して頂きます。

## ●第4回 テーマ「クリエイティビティ」2023年度開催予定

今後配布の案内チラシにて内容を掲載します。

第3、4回講座へも是非ご参加下さい。お待ちしております！



「第2回講座に参加して」

長谷川瑞穂

2022年11月21日に安齋徹講師による第2回講座が婦選会館で催されました。今回の題は「コンセプト」ですが、2021年度から清泉女子大学地球市民学科のコンセプト・スキル系列の科目として「コンセプト」の授業が始まり、学生の満足度も高いとのこと。「コンセプト」とは思考の型を意味し、具体的には批判的思考力、創造的思考力、情報発信力、関係構築力を培い、複雑で混迷している世界の諸問題に取り組み、解決できる人材の育成を目指しています。

次にプロセスの体験が行われ、参加者はグループに分かれ、課題について話し合いました。

グループワーク①として、被災地に142億円を寄付したヤマト運輸の事例の「目的」「行動規範」「手段」を話し合い、発表するという形式でした。グループワーク②では、国連ウイメン日本協会東京の「目的」「行動規範」「手段」をグループで話し合い、改めて自分たちは何を実現したいのか、どのような価値観を重視しているのか、適切な方法をとっているかなどを考えさせられました。

専門的な知識や実学を重視してきた日本の大学教育において、清泉女子大学地球市民学科の取り組みは以下の点で優れていると思います。

1) 問題解決に必要な批判力、創造力、発信力、関係構築力を培うカリキュラムが4年間をとおして体系的に組まれている。  
2) 教員による一方的な講義ではなく、グループワーク、ディベート、現地調査などを取り入れ、学生が能動的、主体的に取り組み、考えることにより、問題解決に必要な力を培うことができる。

3) 全寮制で世界を回り、オンライン授業と各都市での実地の課題解決型を組み合わせる教育方法で注目を浴びている米国のミネルバ大学を参考にし、6人の教員がチーム・ティーチングによる仕組みを構築し、実施している。

最後に、専門性を重視する大学での学科の場合、どのように「コンセプト」を教えていくか、小学校、中学校、高校でどのように「コンセプト」的な要素を取り入れていくかは今後の課題であると感じました。



## 講座アンケートより

### 第1回【プロジェクト】感想

・地域のために大学ができる事の取り組みが面白かった。現場に出ることの大切さがよくわかった。・大学と企画について考えさせられた。女子学生たちが生き生きしていたのが印象的だった。・学生たちがプロジェクトやフィールドワークに生き生き取り組んでいる様子やアクティブラーニングの意義がよく理解できた。・近頃は大学で産学共同の傾向があると聞いているが安齋ゼミの様子を伺い地についての学習を進めておられることを知った。我々の大学時代とは異なるフィールドワークに重きを置いた授業で「大学教育最前線」そのものであるように思った。

### 第2回【コンセプト】感想

・清泉女子大学の授業の一環を体験したような講座であった。・グループワークではじめての方々とも意見交換ができ大変有意義だった。・自由に discussion ができる安齋ゼミのような雰囲気クラスが日本の小学校、中学校の教育にも取り込まれていくことを願っている。・「コンセプト」の授業で学生さんのコメントで、「知識を得ると言うことだけでなく柔軟に考えられるようになった」と言うのがとても印象的だった。・日常の組織の活動なども反省でき、地球市民と言う新しい視点で見直すことができよかった。

参加者の皆様、たくさんのご回答ありがとうございました。

## バザー事業部から ～バザー風景 暖かさと楽しさがひろがります～

「百円でも多くニューヨークに届けたい！」私たちバザー事業部員の頭の中は、常に物品の売れ行きを考えながら品集めに余念がありません。勿論その品を買って下される皆様あってのことですが、途上国支援のための活動は私たちをもまた豊かな気持ちにしてくれます。

現在、ウクライナ戦争で足踏み状態にあります。人間の英知の結晶の「国連の理念」と共に本来の支援活動を、いや増して展開して行かねばならないと思います。女性への支援は、数倍の子どもたちの未来に繋がります。更なるご支援を宜しくお願い申し上げます。

今秋開催したコンサート、婦選会館での「連続講座」で久々にバザーの品々を並べることができました。ことに「けやきホール」では、終日の大雨の中訪れてくれた皆様がUNWomenの支援活動の訴えに賛同の意を表して下さり、休憩時間やコンサートの終了時に、バザーの売り場に足を運んで下さいました。

今年もまた年末恒例の『トモキョ音楽院』主催のクリスマス・チャリティコンサート※が開催され、広いロビーにバザーのための「特設会場」を用意して下さいます。この『音楽祭』に集う生徒さんやご家族の皆様始め観客の方々や友清氏の応援をいただけますことを感謝申し上げます。

※12月18日 会場：埼玉県上尾市市民文化会館大ホールです。  
(事業部 太田恵子 背戸民恵)



友清創氏と共に



けやきホールにて

## ご案内 2023年度 定例総会のお知らせ

下記のように2023年度の定例総会を開催いたします。コロナ感染症の終息が見えにくい状況ではありますが、本年は例年の記念講演会を行う予定です。

日時：2023年2月7日(火) 13:00 受付開始

会場：婦選会館 次第：

第1部 総会 13:30～14:40

第2部 総会記念講演(公開) 14:50～16:30

「UN Womenの活動とジェンダー平等の動き」

講師：橋本ヒロ子 さん

(国連ウィメン日本協会理事長)

UN Womenが運営する国連女性の地位委員会には日本代表として参加、女性の地位向上とジェンダー平等の促進に貢献されてこられた橋本ヒロ子さんに、UN Womenとジェンダー平等の動きについて語って頂き、これからのNGO活動の指針としたいと思っております。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

詳細につきましては、後日、はがきでお知らせいたします。

●新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、総会及び講演会の開催を中止させていただく場合があります。

国連ウィメン日本協会 創立40周年  
国連ウィメン日本協会東京主催  
2023年度総会 記念講演会

「UN Womenの活動とジェンダー平等の動き」

講師：橋本ヒロ子 さん  
(国連ウィメン日本協会理事長)

期日：2023年2月7日(火) 14:50～16:30  
会場：婦選会館 (対面形式) 会場→会場

※総会の開催は、同日の13:30～14:40、同会場にて開催します

2023年度に開催する国連女性の地位委員会には日本代表として参加、女性の地位向上とジェンダー平等の促進に貢献されてこられた橋本ヒロ子さんに、UN Womenとジェンダー平等の動きについて語って頂き、これからのNGO活動の指針としたいと思っております。

そのUN Womenが運営する国連女性の地位委員会には日本代表として参加、女性の地位向上とジェンダー平等の促進に貢献されてこられた橋本ヒロ子さんに、UN Womenとジェンダー平等の動きについて語って頂き、これからのNGO活動の指針としたいと思っております。

国連ウィメン日本協会東京 (03-370-0238) 17階 千代田区千代田2-21-11  
国連ウィメン日本協会東京事務局 国連ウィメン日本協会東京事務局と事務局  
国連ウィメン日本協会東京事務局 国連ウィメン日本協会東京事務局と事務局  
国連ウィメン日本協会東京事務局 国連ウィメン日本協会東京事務局と事務局  
国連ウィメン日本協会東京事務局 国連ウィメン日本協会東京事務局と事務局  
国連ウィメン日本協会東京事務局 国連ウィメン日本協会東京事務局と事務局  
国連ウィメン日本協会東京事務局 国連ウィメン日本協会東京事務局と事務局  
国連ウィメン日本協会東京事務局 国連ウィメン日本協会東京事務局と事務局

<アクセス> 婦選会館  
JR線 代々木駅北口・  
新宿駅南口・新南口下車 徒歩7分  
小田急線 南新宿駅下車 徒歩3分  
地下鉄都営新宿線・大江戸線  
新宿駅 A1 出口下車 徒歩3分  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-21-11  
TEL:03-3370-0238



## たくさんのご寄付・ご協力をいただき有難うございました。

(敬称略)

寄付者 (2022年4月1日～2022年11月25日)

堀口裕子 金子裕子 鈴木千鶴子 奥田豊子 高木宏子 白根和味 安陪陽子 鷺見誠一 鷺見八重子  
梅田和子 加藤聖子 福田文子 辰巳京子 田村節子 飯田寛子 高田武子 長谷川瑞穂 加藤智子  
海野幹雄・春恵 阿部幸子 青山学院女短大同窓会ボランティアG 太田恵子

## 編集後記

「排除アート」。2004年頃から公園のベンチに見られる仕切りなど、ホームレスの寝ころび防止のためです。公的スペースの損壊やマナー違反防止の目的で、他者を排除していく街、誰にも優しい街。子どもたちの常識になっていくのが恐ろしいです。学校でディベートの教材に取上げるなど、民主主義の教育を!(J)

先日、都内に外出した折に鍵を落とした。以前にも鍵を紛失、辺りを隈なく探したが見当たらなかった。今回は鍵に付けてあるエアタグの機能によりiPhoneで位置情報を確認、翌日所轄の警察署に保管されていた鍵が無事に戻った。今やシニア世代には情報機器は無くしてはならない存在だが、便利なものには落とし穴もあるようだ。(S)

## 国連ウィメン日本協会東京

## News Letter

Vol.31

発行人：会長 城倉純子

発行日：2022年12月6日

〒167-0042 東京都杉並区西荻北3-11-3  
サンコート西荻窪 105

Tel/Fax 03-6913-9946

http://unwomentokyo.org

E-mail:unwomentokyo@unwomentokyo.org

## 第32回 国連ウイメン日本協会東京チャリティコンサート 「海野幹雄 チェロリサイタル」に参加して

加納 孝代

2022年10月7日金曜日の午後、渋谷区代々木木上原にあるけやきホールで海野幹雄さんのチェロリサイタルが開かれました。これは国連ウイメン日本協会東京の第32回チャリティコンサートとして企画されたものです。今年の春から案内がされていて、楽しみにしておりました。

でも当日はあいにくの天気、それも雨天というだけでなく、強い風を伴う吹き降り、さらに気温がぐんと下がりました。これではチケットを買ってくださった方も躊躇なさるかも、と心配になるほどでした。ところが会場に行ってみるとお客様が風雨について続々と到着なさるのです。その様子に安堵感のみならず感謝の思いも湧いてきました。あとで聞くと150名の方が来場して下さったそうでした。

演奏者は海野幹雄さん、ピアノ伴奏は春絵夫人でした。前半と後半に分かれ、前半では多くの人が耳にしたことのあるサンサーンスの「白鳥」、ドヴォルザークの「我が母の教え給いし歌」、ラフマニノフの「エレジー」など6曲の小品が、後半ではバッハの「無伴奏チェロ組曲第1番」からの数曲と、ブラームスの「チェロソナタ第1番」やポップターの「ハンガリー狂詩曲」といったチェロの代表的傑作が演奏されました。

その合間に海野幹雄さんのお話が入り、会場は和やかな雰囲気になりました。演奏会に行くと、どこで拍手をして良いかわからず心配な時があります。ソナタだと第3楽章で終わるか、もしや第4楽章まであるのか、また小品でも演奏者が三つ四つをまとまりのある世界に構成しておられる場合、たびたびの拍手は迷惑かもしれず、自分の拍手だけでなく人の拍手のタイミングも気になることがあります。でも今回は一曲ごとに幹雄さんのトークが入ったので、そんな本質的でない心配は無用でした。1曲が終わるたびに自然に沸き起こる拍手を海野夫妻も喜んでくださっているようで、ステージと客席の間にはコンサートの間中、温かい空気が流れていました。

お話の中ではコロナ感染症の拡大に伴って演奏会が軒並み中止されたときのご苦労が語られました。私たちにも思い当たることばかりでした。人類が戦争や自然災害や今回のパンデミックのように大きな災厄に遭遇した時には、動物としての生命の維持と保存が一番重要であることは当然です。しかし海野さんも言うておられましたが、人間の場合、それだけではない、さらに人間が求めているものがある、それが音楽やその他芸術と言われるものではないか、それこそ人間が人間であり続けるために、なくてはならないものではないだろうか、というようなことを、私たちもコロナ体験を経て改めて認識できたように思います。

今回演奏に使われたチェロは結構古い時代のものだったそうです。そのせいか、深い音色のうちにも、どこか素朴で単純で、聴く者の胸に真っすぐに語りかけてくるような響きがありました。

最後にアンコールに応じて演奏されたのはスペインのカタロニア地方のメロディの「鳥の歌」でした。これはパブロ・カザルスが1971年のニューヨークの国連本部における平



CDの売上げの一部をご寄付いただき、ありがとうございました

和コンサートで、「鳥たちはピース、ピース、ピースと鳴いている」と紹介して演奏した曲でもあります。カザルスの胸に去来した戦争はスペイン内戦と第二次世界大戦、そしてその後の冷戦だったでしょう。私たちはロシアとウクライナの戦争のことを思いながらこの曲に聴き入りました。鳥でさえ「ピース！」と叫んでいるのに、人間がなぜピース(平和)を来らせることができないのか、と問われているのを感じながら。

この演奏会はチャリティとして企画されましたが、それに賛同して下さり、さらに会場でのCDの売り上げもご寄付下さった海野さんにお礼を申し上げたいと思います。また私たちもできる限り芸術の世界で精進を続ける音楽家の方々の活動に協力してゆきたいとの思いを抱きつつ帰途に就きました。

### 素敵だったコンサート 中曾 瑠香 (小学5年)

私は海野さんご夫婦のチェロとピアノの演奏を聴いて、素敵だなあと感じたことが2つありました。

1つ目は、目を閉じて演奏されていたということです。高くて広々した音を出すときにはまぶたを持ち上げて上を向き、低くて深い音を出すときには目を強くつぶって下を向いたりしていました。私は前から2列目のところに座っていたのでよく感じることができました。体を揺らしながら、気持ちよさそうに演奏する姿を見て、たくさん練習しているから目を閉じて大丈夫で、集中されているのだと思いました。

2つ目は、曲紹介のときや、演奏しているときの笑顔です。必ず演奏の前に曲の紹介をされていました。歴史や、特徴など、よくわかりました。いつも笑顔でお話されていたので、私もついつい笑顔になってしまいました。

祖父が、「10歳でこんな素晴らしい演奏が聴けるなんて、特別だね」と嬉しそうに言っていました。終わった後、とても気に入ってCDを買っていました。私は、サインが可愛いなと思いました。祖父は、朝ごはんの時も、夜寝る前も、毎日海野さんの素敵な演奏を聴いているそうです。

心に残る時間になりました。また行きたいと思います。

### 会員の皆様へ お願い

会員の皆様にコンサートや講座などの大切なお知らせをいち早くお届けするため、メールでのご連絡の準備を進めています。国連ウイメン東京ホームページの【資料請求 お問い合わせフォーム】に、メールアドレスを記入してお送りください。【unwomentokyo@unwomentokyo.org】に直接メールをお送りいただいても結構です。よろしくお願いたします。